

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 前歯部審美修復

演者名 三村彰吾

日 付 2009年2月24日

Key words

1. Biologic width
2. Emergence profile
3. 抜歯後即時埋入

抄 録

現在、歯科治療において機能および審美の両方の回復改善は当然のものとなっています。今回、特に審美修復に焦点をあて、前歯部補綴の歯周組織との関係、フィニッシュラインの位置、について約5年前から行っている私の考えを皆様に供覧していただき意見をいただきとうございます。

症例1（はじめて自由診療を行った症例です。）

初診日 2002.08.19

患者 18歳 女性

主訴 左上中切歯の色調と形態が気になる。

オールセラミッククラウンで修復

症例2（はじめて抜歯後即時インプラント埋入を行った症例です。）

初診時 2006.7.9

患者 38歳 女性

主訴 右上中切歯の動揺

抜歯後即時インプラントにて修復